

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年7月25日月曜日

Oracle APEX 22.1にて翻訳済みアプリケーションを作成する

Oracle APEX 22.1にて新たに提供されたセッション・オーバーライドの機能を確認するため、以前に作成した翻訳済みアプリケーション（[こちらのワークショップ](#)）をOracle APEX 22.1で作り直してみました。

以下にAPEXのバージョンアップに関連して、変更が必要だった手順を記載します。

ログイン・ページに言語セレクトラを作成する

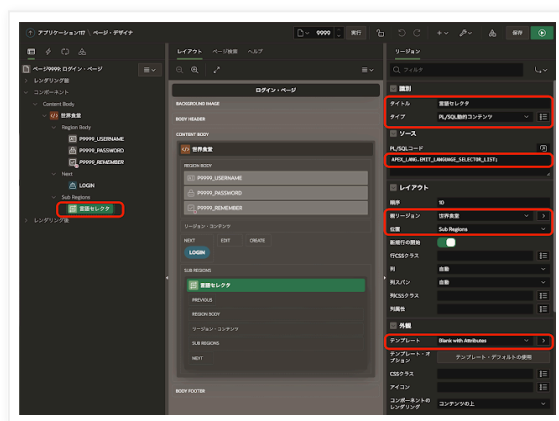
Oracle APEX 22.1のアプリケーション作成ウィザードは、ログイン・ページ（ページ番号9999）に言語セレクトラを作成してくれないようです。言語セレクトラを手作業で作成する必要がありました。

ログイン名、パスワードを入力するページ・アイテムを含むリージョン（今回の例ではリージョン世界食堂）のサブ・リージョン（Sub Region）となるリージョンを作成します。

識別のタイトルを言語セレクトラ、タイプとしてPL/SQL動的コンテンツを選択します。ソースのPL/SQLコードとして以下を記述します。

`APEX_LANG.EMIT_LANGUAGE_SELECTOR_LIST;`

レイアウトの親リージョンは世界食堂、位置はSub Regionsとします。外観のテンプレートとしてBlank with Attributesを選択し、リージョンのタイトルや枠の表示を省略します。



フォーム付きレポートの作成手順の変更

Oracle APEX 22.1ではページ作成ウィザードが簡素化され、ページの作成が簡単になっています。日時データとタイムゾーンの扱いを確認するために、表WR_ORDERSを扱うレポートとフォームのページを作成していますが、この手順が変わります。

新しいページ作成ウィザードによる手順は、以下になります。

ページ作成ウィザードを起動し、コンポーネントのクラシック・レポートを選択します。



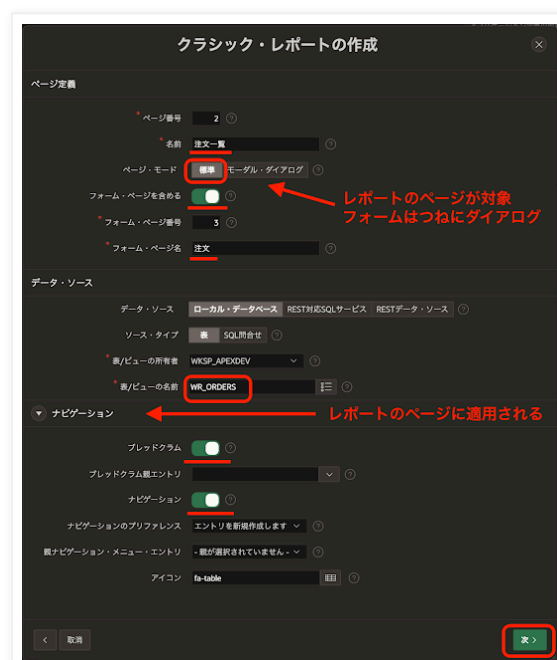
ページ定義にて、名前を注文一覧、ページ・モードとして標準を選択します。ページ・モードはレポートのページに適用されます。フォーム・ページを含めるをONにするとフォームのページも同時に作成されますが、フォーム・ページはつねにモーダル・ダイアログになります。

フォーム・ページを含めるをONにし、フォーム・ページ名を注文とします。

データ・ソースの表/ビューの名前にWR_ORDERSを指定します。

ナビゲーションのブレッডクラムとナビゲーションをONにします。これらの設定はレポートのページに適用されます。フォーム・ページはつねにモーダル・ダイアログであるため、ブレッডクラムおよびナビゲーションは不要です。

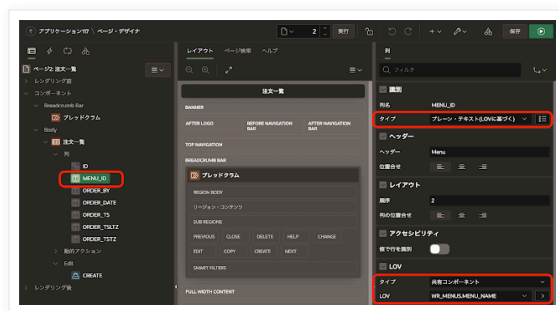
以上の設定を行い、次に進みます。



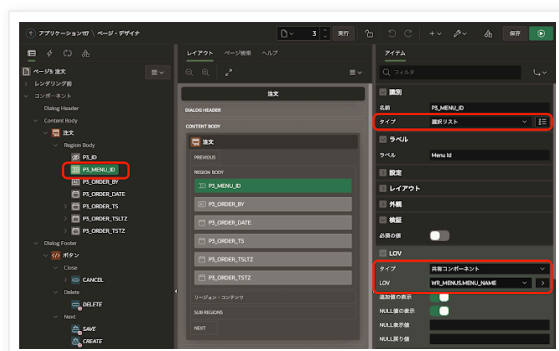
主キー列1として、ID(Number)を選択します。ページの作成を実行します。

クラシック・レポートのページ注文一覧がページ番号2、フォームのページ注文がページ番号3として作成されます。表WR_ORDERSの列MENU_IDには表WR_MENUSのIDを参照する、外部キー制約が定義されています。そのため、共有コンポーネントのLOVとしてWR_MENUS.MENU_NAMEが、自動的に作成されます。

クラシック・レポートの列MENU_IDの識別のタイプとしてプレーン・テキスト(LOVに基づく)が選択され、LOVとして共有コンポーネントのWR_MENUS.MENU_NAMEが指定されています。

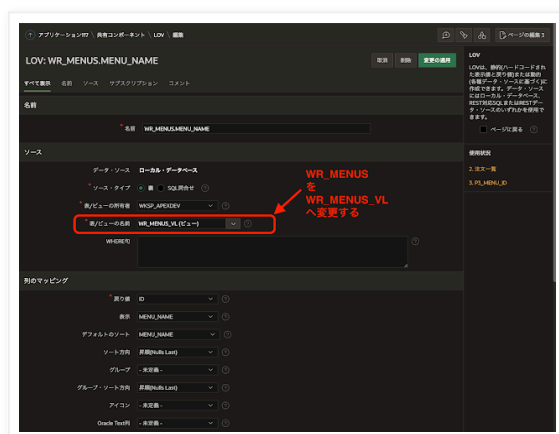


フォームに含まれるページ・アイテムP3_MENU_IDも同様に、識別のタイプとして選択リストが選択され、LOVとして共有コンポーネントのWR_MENUS.MENU_NAMEが指定されています。



自動的に作成された共有コンポーネントのLOVWR_MENUS.MENU_NAMEは、外部キー制約の定義を元になっています。そのため、表WR_MENUSがデータ・ソースになっています。

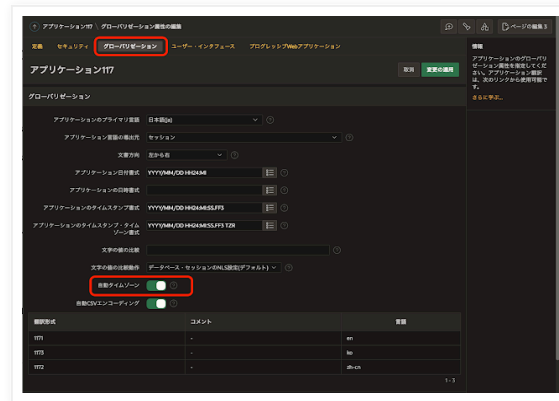
翻訳済みのビューWR_MENUS_VLが定義済みなので、**ソースの表/ビューの名前をWR_MENUS_VLに置き換えることにより、選択リストがそれぞれの言語に翻訳されます。**



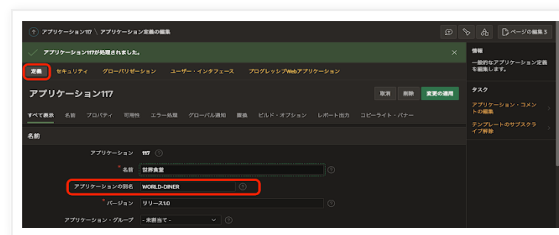
自動タイムゾーンをONにする場合は、アプリケーションの別名に日本語を含まない

Oracle APEX 22.1でも、この点は修正されていないようです。

アプリケーション定義のグローバリゼーションの自動タイムゾーンをONにします。



このように設定した場合、**アプリケーションの別名**には日本語を含まないようにします。



翻訳済みアプリケーションのインポート後はパブリッシュする

翻訳済みのアプリケーションをインポートしただけでは、翻訳が有効にならないようです。アプリケーションのインポート直後は、言語セレクトが表示されません。



共有コンポーネントのグローバリゼーションのアプリケーション翻訳を開きます。Oracle APEX 22.1からは、翻訳済みのアプリケーションの数も表示されます。アプリケーション世界食堂はメインの言語が日本語で、翻訳として英語、中国語（簡体）、韓国語を含んでいるため、その数は**3**になっています。



翻訳アプリケーションのパブリッシュを開きます。



翻訳済アプリケーションをすべて選択し、パブリッシュを実行します。



パブリッシュを実行した後にアプリケーションを実行すると、サインインの画面で言語セレクトが表示されます。



今回作成したアプリケーションを以下に起きました。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/world-diners.zip>

このアプリケーションを、Oracle APEX 22.1の新機能セッション・オーバーライドの説明に使用する予定です。

以上になります。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 16:11

共有

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
